

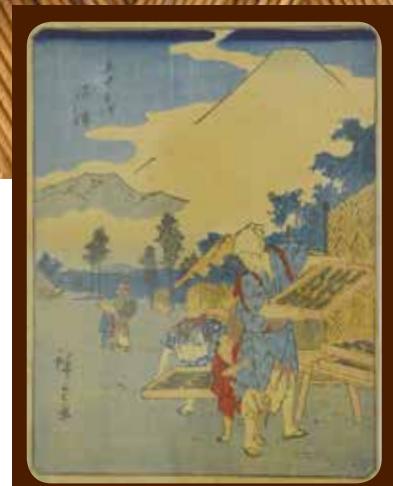
ぬまづの宝

第四十六回

# 百選

めぐり

# 沼津垣



歌川広重作「東海道五十三次 沼津(人物東海道)」に、魚を天日干しにしている女性の後ろに描かれた沼津垣

沼津垣は、昔から沼津周辺で浜からの潮風や砂を防ぐために用いられてきた垣根で、景観的にも機能的にも優れています。旧沼津御用邸でも多く用いられたことから、一般にも知られるようになりました。

材料は、箱根竹と呼ばれる細い篠竹を十数本ずつ束ねて、網代(あじろ)編みにしています。この束を「手」といい、どの束も別の二つの束を越えて編んでいたため、この編み方は「二手(ふたて)越し」と呼ばれています。この沼津垣は、沼津御用邸記念公園や若山牧水記念館などで見ることができます。

公益社団法人沼津市シルバーサンセンターでは、伝統を継承しようと沼津垣の製作販売を行っています。しかし、近年では受注量の減少や職人の引退により、継承の岐路に立たされています。同センターでは伝統を伝えようと、沼津垣の製作技術を学ぶ講習会を開催しました。



◀今年の講習会には10人が参加。参加者の下田麗子さん(千本)は、竹を曲げるなど力仕事が多くて大変でしたと話してくださいました



◀講師を務めた、20年余り沼津垣を作り続けている久保田栄一さん。竹を一本づつ編むのはとても大変だが、角度が揃った網目模様がとても美しいのが沼津垣の魅力という

—沼津垣伝承のために—